

側溝に落ちる小動物の バリアフリー対策

NPO法人野生生物調査協会

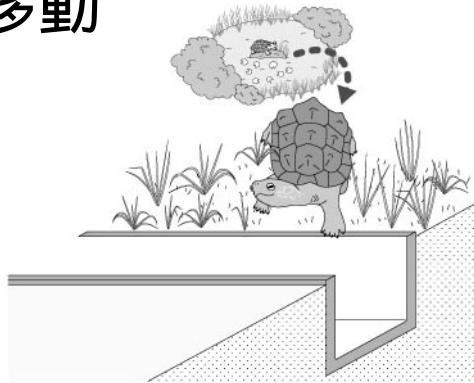
2010年12月1日

はじめに

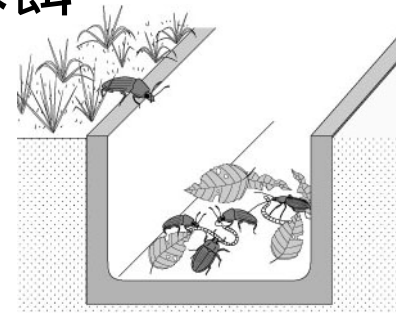
- 側溝には、様々な動物が落下している
- しかし、落下動物全般を定量的に把握し、その影響に触れた既存の研究は少ない(沖縄を除き)
- 側溝を設置する事業者(行政、土木・建設業者など)の多くは、この問題に関心が低い
- 当NPOでは、側溝落下動物の実態調査を行い、その対策の普及を目的にシンポジウムを開き、パンフレットを作成した

動物はなぜ側溝に落下するのか

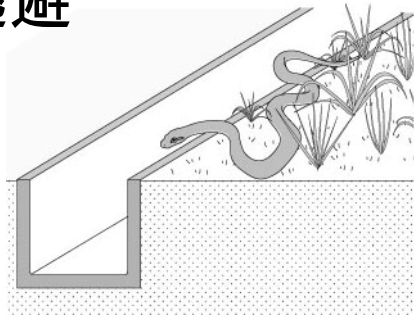
移動



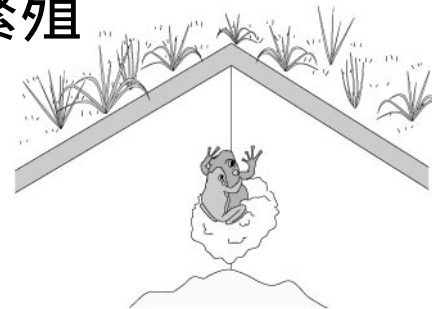
採餌



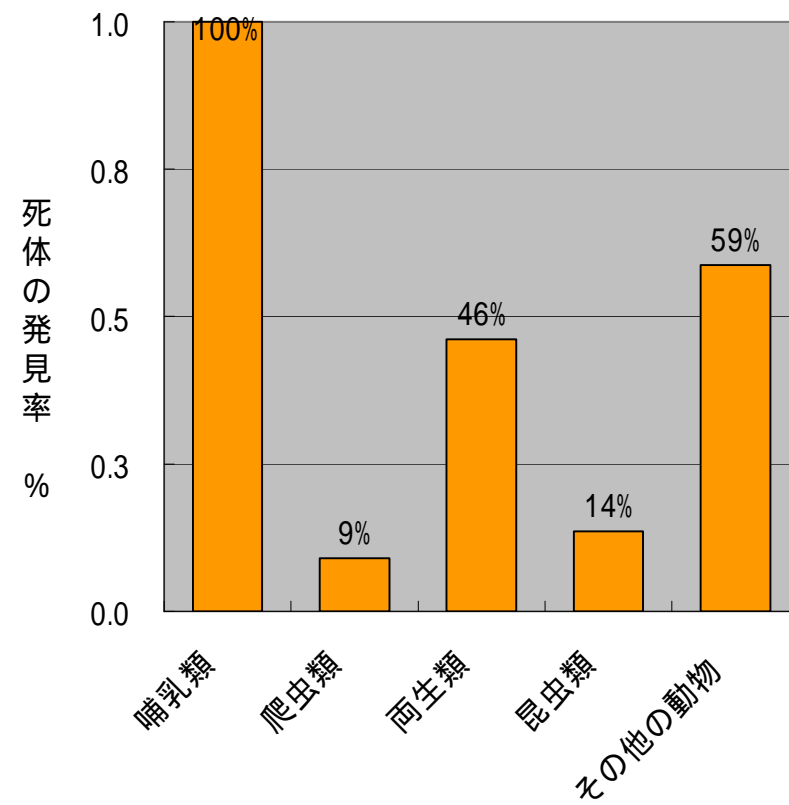
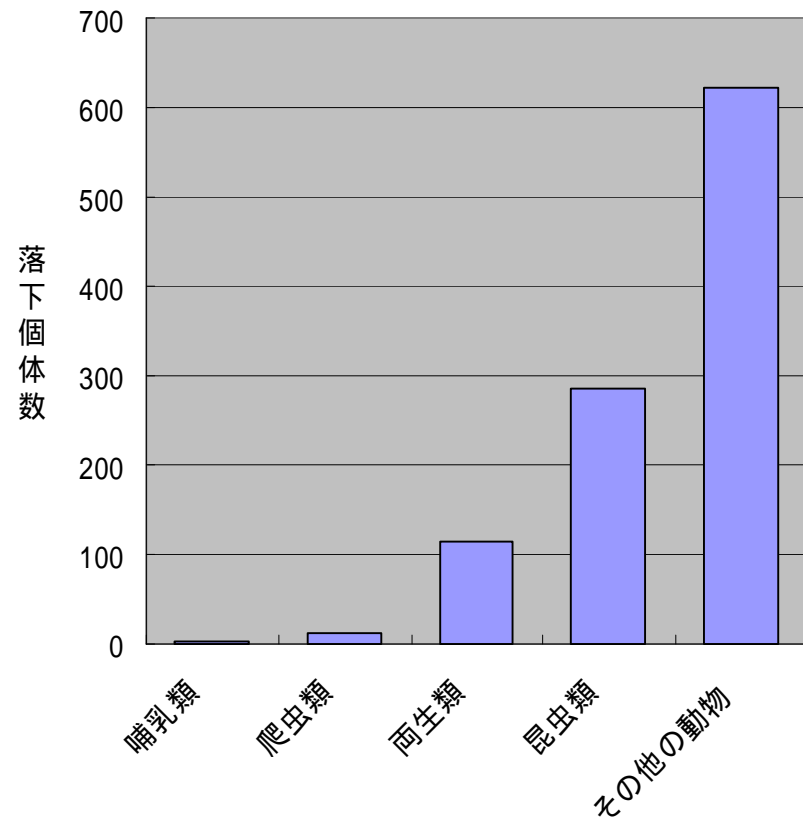
逃避



繁殖



落下動物の個体数と死亡率



落下動物の3パターン・その1

這い出す能力が乏しい

- ・モグラ類
- ・カメ類
- ・イモリ、サンショウウオ類



落下動物の3パターン・その2

体が小さく、這い出せない

- ・小型のへビや幼蛇
 - ・キジなど
- 地上歩行性鳥類のヒナ



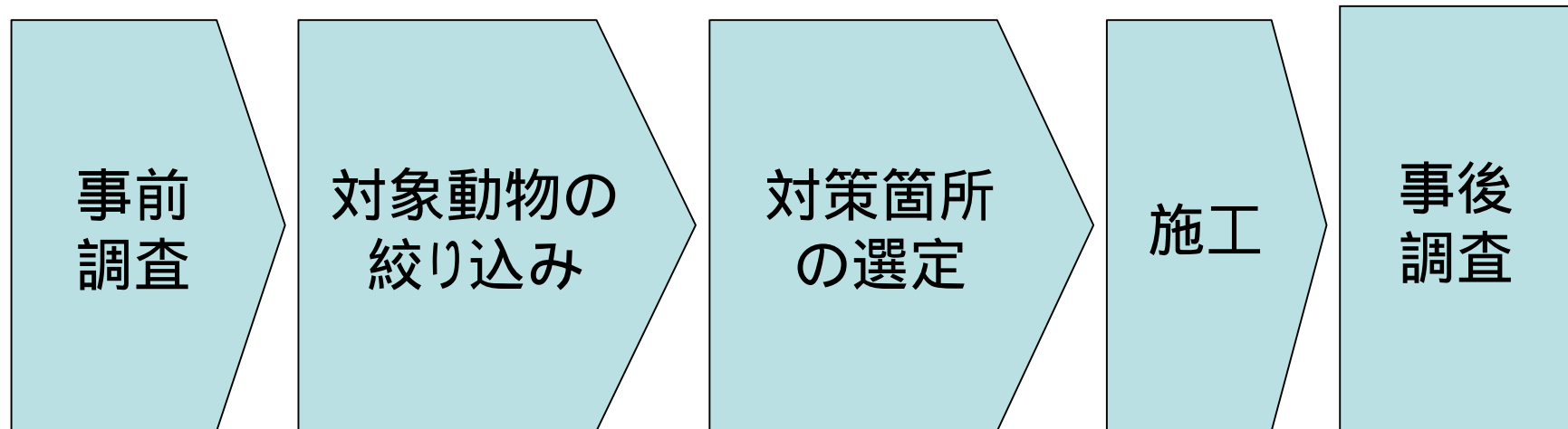
落下動物の3パターン・その3

這い出す能力を持つが、高温・乾燥で死亡

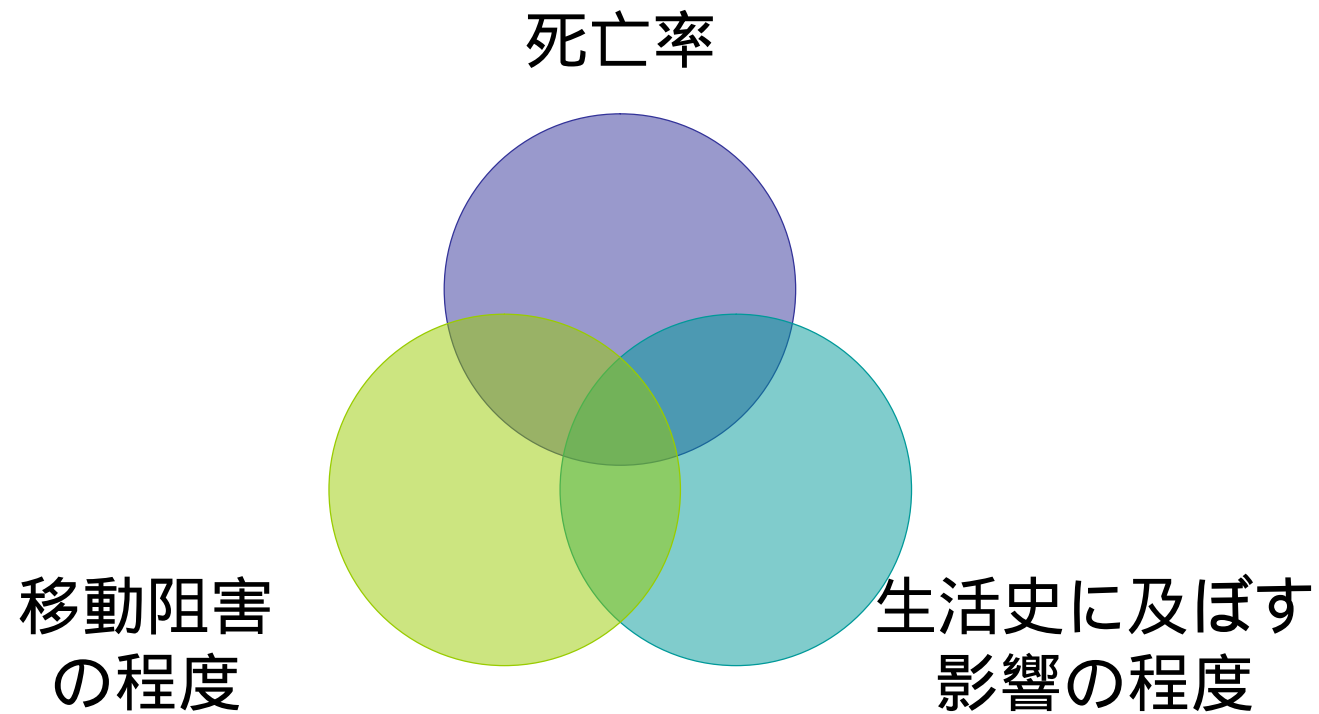
- ・トカゲ類
- ・吸盤を持つカエル類
(シュレーゲルアオガエル、
アマガエルなど)



小動物のバリアフリー対策の 進め方



対象動物の絞り込む3つのポイント



這い出し対策・施工上のポイント

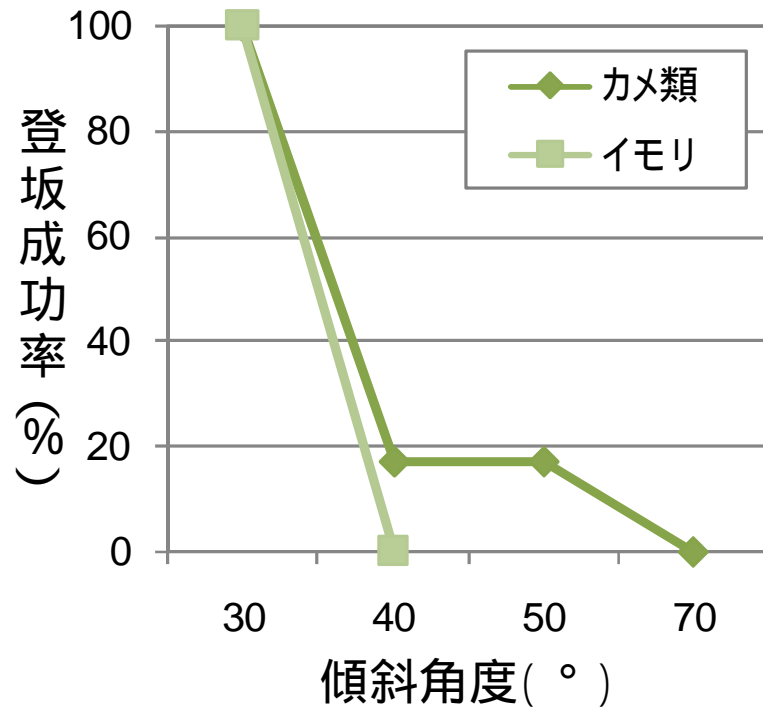
効果的な這い出し構造

効果的な設置箇所

効果的な設置間隔

効果的な這い出し構造

- 動物が這い出し易い傾斜や凹凸 -



L字型側溝



効果的な設置箇所

- 落下動物が集まりやすい箇所(例:集水升) -



動物這い出し型集水升



効果的な設置間隔

長大な延長の側溝全てに対策を行うことは、
経済的、社会的に困難



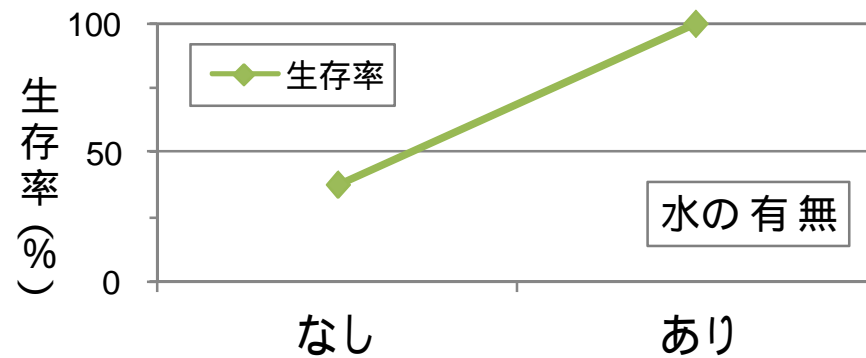
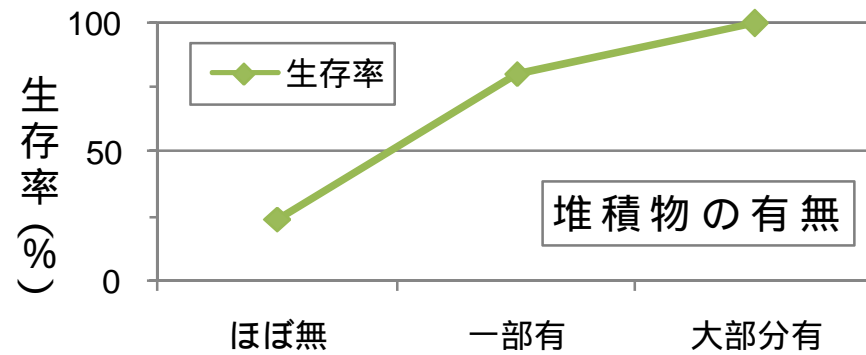
そこで、効果的な設置間隔は？



死亡率が高い両生類については、効果的な設置間隔
について確かなデータがない


動物と共存できる側溝に向けて

- 這い出し側溝を連続して設置できない場合 -



透水性U字溝





側溝に落下する 小動物を救うには

小動物のバリアフリー対策

道路の円滑な排水と安全のために欠かせない側溝。
しかし、一部の野生動物にとっては、
それが大きな脅威となることが懸念されています。
ほんの少しの配慮で避けられる犠牲があります。
小動物を落下から救うために、
今できることはなんなのでしょうか。

[NPO法人 野生生物調査協会] オフィシャルサイト: <http://www.npo-wildlife.com>

NPO法人 野生生物調査協会

小動物バリアフリー対策パンフレットの作成と配布

- 当NPOの調査結果、研究者や技術者の研究成果、事例をもとに、2009年夏に、パンフレット・「側溝に落下する小動物を救うには」を作成
- 2009年秋、全国の地方自治体約120か所に配布
- 反響は非常に大きく、10数に及ぶ地方自治体から、パンフレットの送付希望依頼あった